



大阪型近代長屋の保全活用

大阪市立大学 大学院 生活科学研究科 教授 小伊藤 亜希子

【研究の目的】

大阪市大モデルとして大阪型近代長屋の保全活用の戦陣を切った豊崎長屋の再生実践と、広がりつつあるその他の活用事例の調査結果から、リノベーションされた大阪型近代長屋の住生活評価を試み、住宅ストックとして現代の価値を再評価する。

【研究の概要】

1. 研究の特徴 実践的研究であること

大阪都心のど真ん中に残る豊崎長屋群。大阪市大生活科学研究科で、家主と居住者に寄り添いながら実践してきた長屋再生は、“市大モデル”と呼ばれる。その実践から、長屋再生の可能性を探る。

伝統的住宅を、現代のライフスタイルから、再評価していること

すっかり洋風化が定着した現代において、あえて日本の伝統的様式をもつ長屋を選択した人々がいる。豊崎長屋、その他の長屋に新規入居した人々の暮らしぶりから、現代住宅としての長屋の可能性を展望する。

本研究の成果は、空き家が増加する人口減少社会において、貴重な住宅ストックを魅力的な住まいとして再生活用する展望を開くものである。



豊崎長屋外観

登録有形文化財に登録



リブフレームによる耐震改修
動線や光や風を遮らずに補強が可能。
デザインとしても生かしながら。

大阪市立大学 産学官連携推進本部 URAセンター

TEL:06-6605-3550 FAX:06-6605-2058

E-mail:sangaku@ado.osaka-cu.ac.jp



大阪型近代長屋の保全活用

大阪市立大学 大学院 生活科学研究科 教授 小伊藤 亜希子

【研究の概要】

豊崎長屋の保全再生 “市大モデル”の基本方針

住まいとして再生する:

店舗や飲食店として活用する前例は少なくないが、あくまで住宅としての活用を目指し、若者等新たな居住者にも受け入れられるデザインと居住環境を整える。

耐震改修をする:

長屋を活用する際、耐震化は大きな課題。豊崎長屋は、戦前木造住宅に適応可能な「限界耐力計算」により、震度6強の地震時にも倒壊せずに人命を守ることを目標に耐震改修を実施した。

家主が借家経営の展望が持てる:

家主が耐震化を含めた改修費用を負担しつつ、アフォーダブルな借家経営の展望を持てる事業モデルを目指す。

調査と実践を通じて、①日本の伝統的住空間を持つ大阪近代長屋は、現代の居住者によって有効に利用され、活用すべき住宅ストックとしてその価値を失っていないこと、②むしろ、新しい居住スタイルを選択する人々の住要求に柔軟に適応し、これからの住様式の展開を先導していることを示した。

今年のオープンナガヤ大阪は11月11-12日に開催されました URL (<http://opennagaya-osaka.tumblr.com/>)



書籍出版

『いきている長屋：
大阪市大モデルの構築』
谷直樹・竹原義二 編著
大阪公立大共同出版会

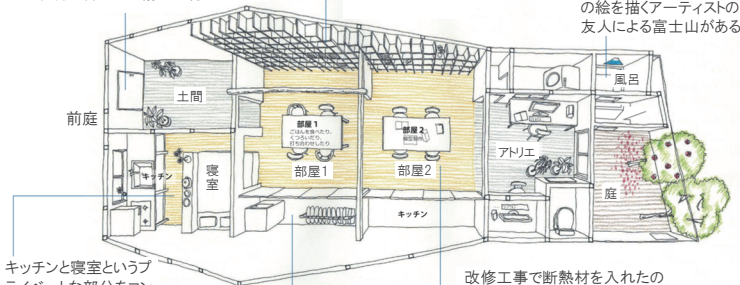


玄関が大通りに面していないので、玄関ドアを開け放している。インターホンはないが、玄関アプローチの砂利の音で人の訪れが分かる。



壁一面が本棚となって、長屋全体を覆う特徴的なつくり。上の方の本は、本棚を階段代わりにしてのぼって取る。仕事関連の本や、テレビが並ぶ。

浴室の場所は悩んだ末に決定された。一度外に出てお風呂に入る。浴室内には、お風呂に富士山の絵を描くアーティストの友人による富士山がある。



キッチンと寝室というプライベートな部分をコンパクトに1ヶ所にまとめている。扉を締めることで、つるぐとくところがない。

この長屋は、住居としてだけでなく、立地がいいので事務所としても便利に使える。たっぷりとした収納がバックヤードとなっている。

改修工事で断熱材を入れたので、熱環境は良い。既存の小壁や袖壁を残しながらも、天井まで吹き抜けた大きな一室空間となっている。

活用事例

平屋の長屋で本棚に囲まれて働きつつ暮らす

大阪市立大学 産学官連携推進本部 URAセンター

TEL: 06-6605-3550 FAX: 06-6605-2058

E-mail: sangaku@ado.osaka-cu.ac.jp